

ここは、
とある屋敷の地下室

そういえば……

あんたはどうして
この地下室に
放り込まれたのよ？

ああ……、
まだ話して
なかったっけ？

この屋敷の金品を
盗もうとしたら、
主に見つかってね……

そっちは
どうしてよ？

理由あって主を
暗殺しようとしたら
返り討ちにあってね

暗殺……？

それにしても、
監禁されてる割に
そこまで不自由
してないのよね……。

ええ……
普通ならもっと
痛めつけられそうな
ものなんだけど……。

部屋は地下室だけど、
お風呂もトイレもあって、
食事も三食でるし……。

手錠は
されてるけどね

渡された衣類が
水着ってのも謎よね

けど、脱出しようとしたら
絶対に見つかるし……

脱出はいけません
大人しくして
ください

お風呂の
天井から……

あるじ
主との面会も
なんかおかしいのよね

解放はできませんが、
お話したいときは
いつでもどうぞ

それで、
極めつけは……

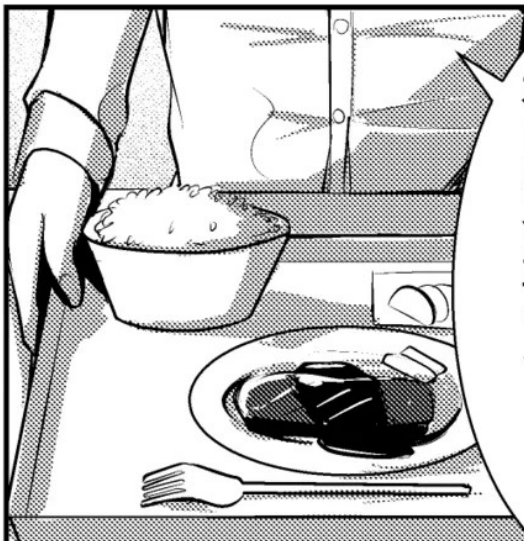
ガチャ

お疲れ様です。
今回はこちらで
お願いします。

きた!!
また今日も謎の
撮影会!!

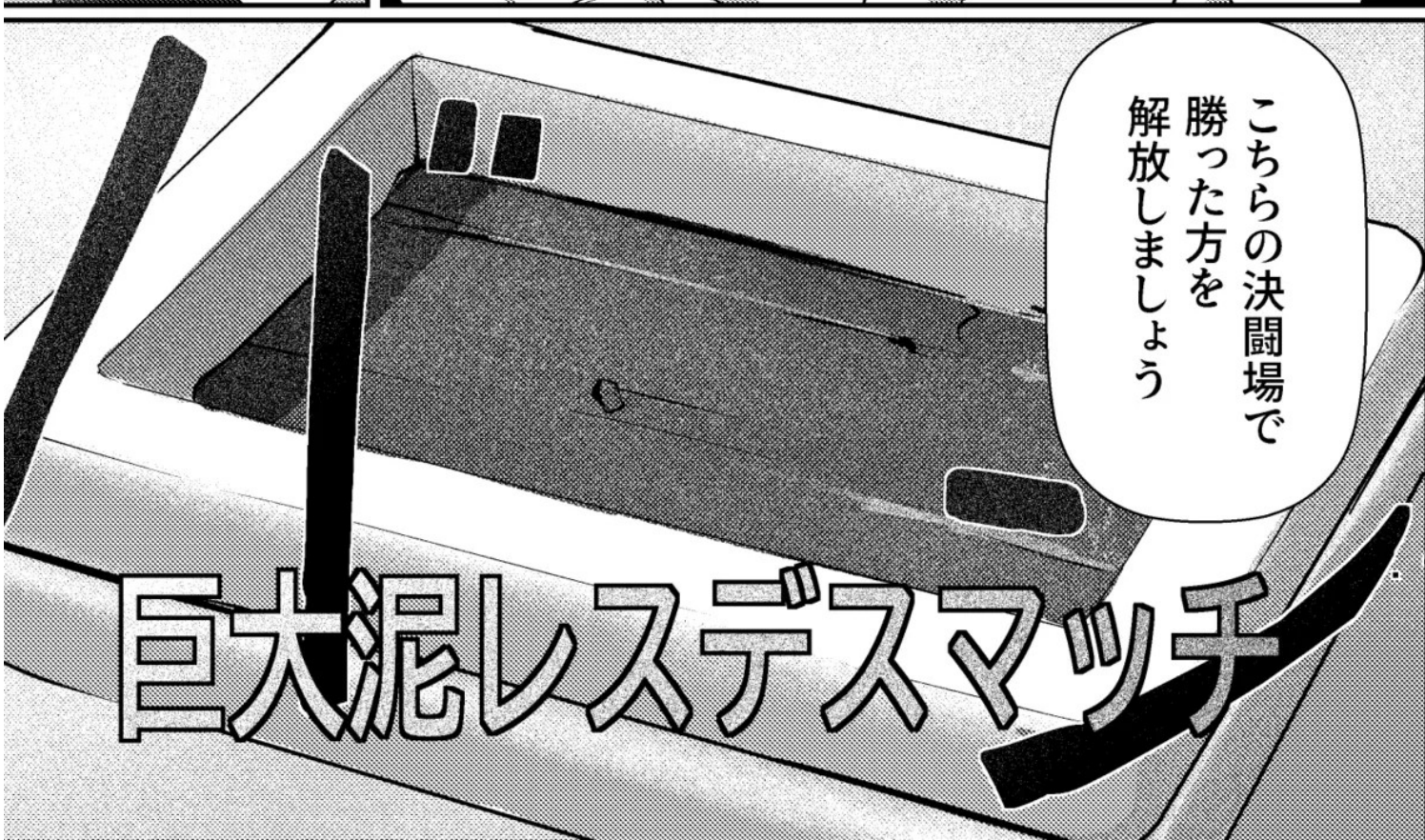


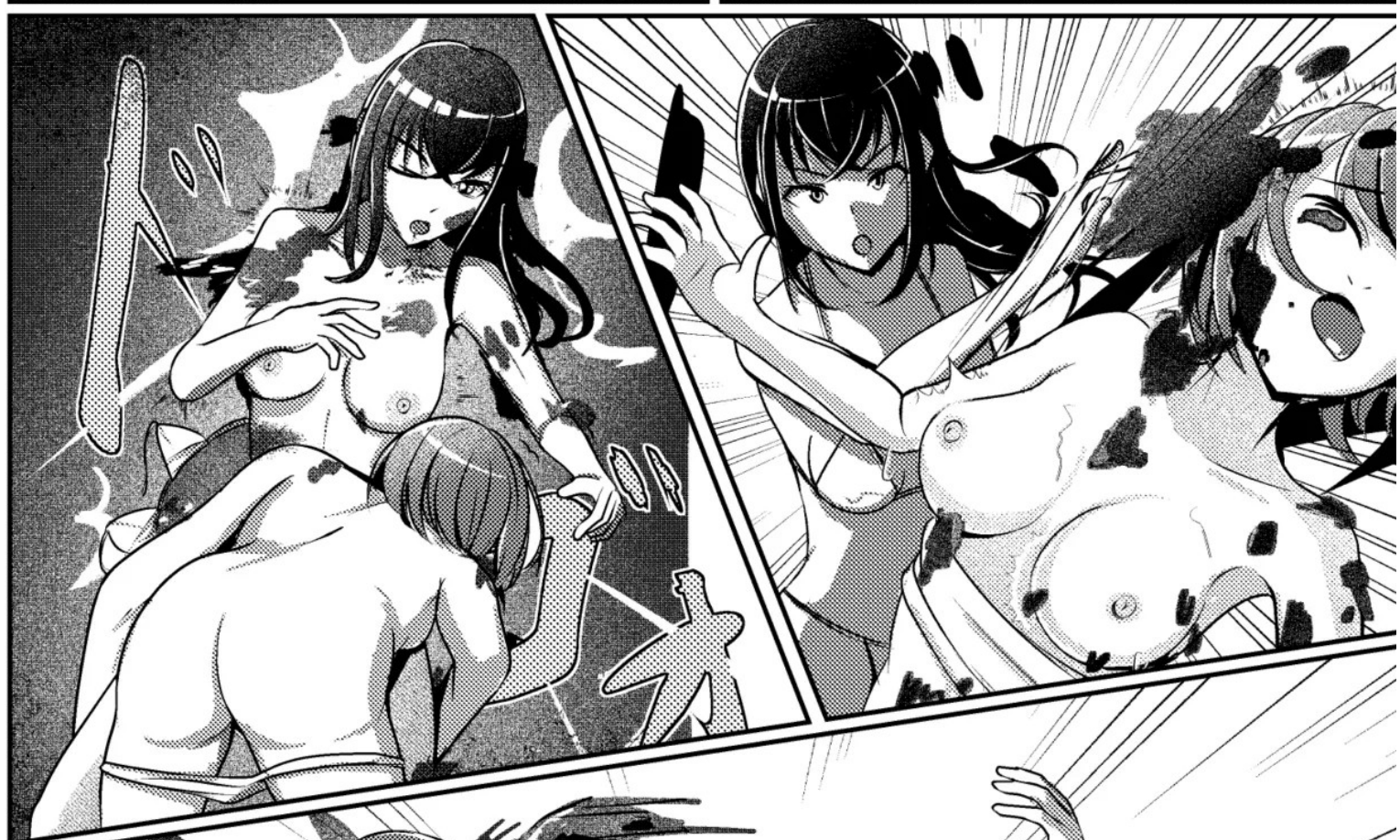
ありがとうございます。
こちらが
本日の食事です。

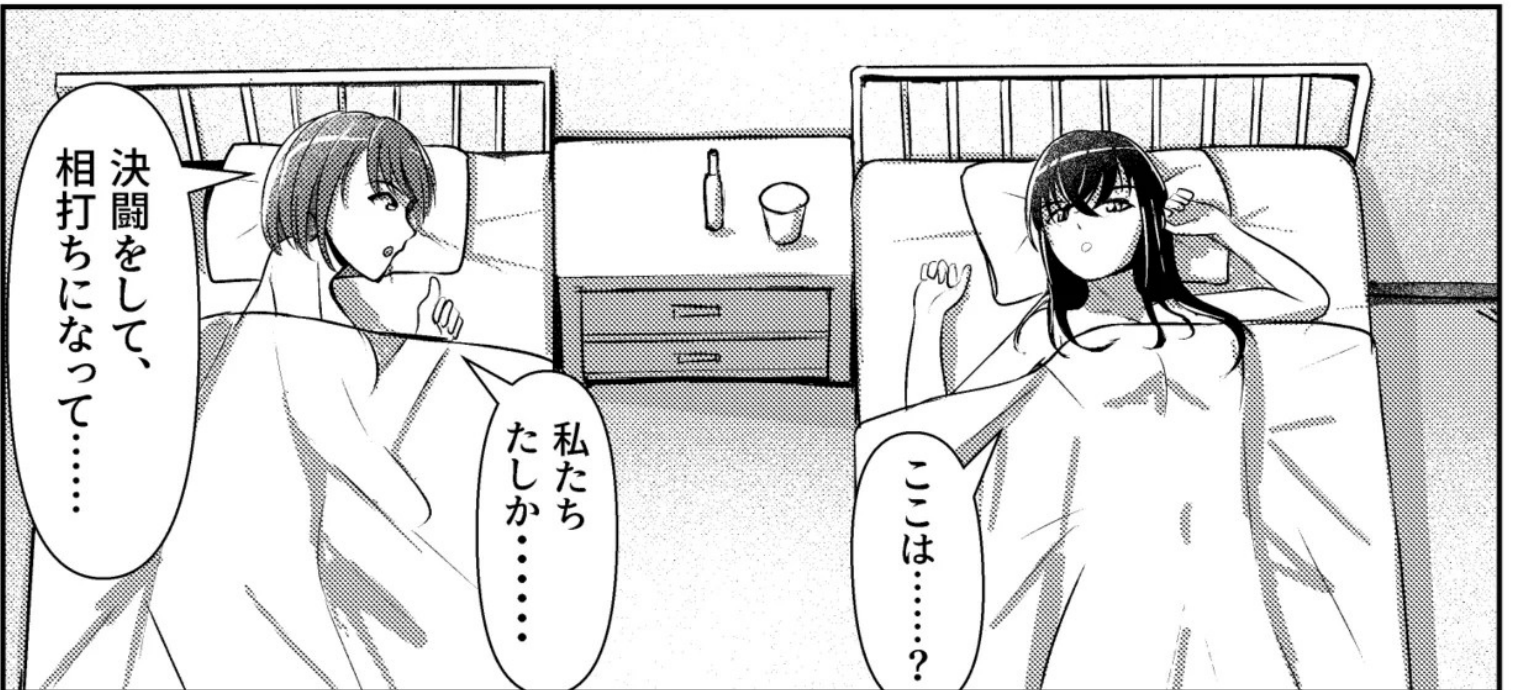


あんたねえ……









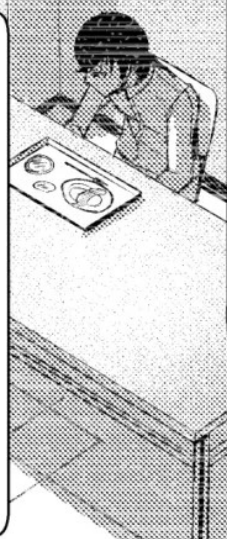
この屋敷には呪いのような結界があつて、私だけこの屋敷から出られないようになってるのですが、



水や食料は希望すれば湧いてくるし、ネット回線も通つていて外部との通信もできるんです

だから暮らしには困っていませんでしたが、一人で寂しかったんですよ

それで、どんな目的でも偶然屋敷に来たあなた方の事を手放したくなくて……



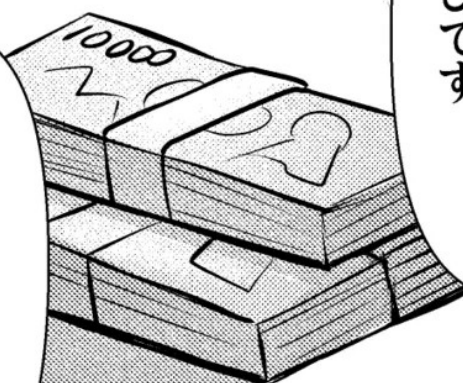
だけど、それも全部私の我儘^{わがまま}でした

お二人の事は解放します

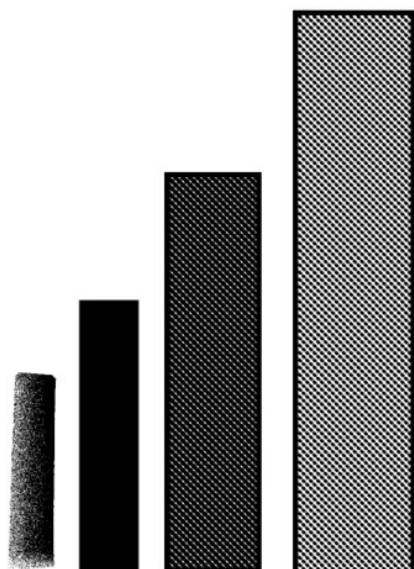


こちらは今までご迷惑をかけたお詫びです

短い時間でしたが楽しかったです



ありがとうございました



一か月後

おい！
あの無能女
どこいった!?

私は所属していた
暗殺組織から追われていた

暗殺に失敗した事から
組織に無能扱いされ

屋敷の主から貰ったお金も
取り上げられ、
散々な目に遭っていた

君、役に
立たないから

地下で
男の相手ね

隙を見て組織から
逃げ出したものの、
簡単には振り切る事ができず

逃げ続ける日々を
過ごしていた

屋敷に逃げ込もうと
近くまで来たけど、
屋敷が見当たらないわ

どうなってんのよ

ねえあんた

あんたは
あの時のコソ泥!?

誰がコソ泥ですって!?

あんたこそどうして
こんな所にいるのよ!?

わな.....

あっちから
声がしたぞ!!

やばっ

あんたのせいよ!!

どうすんのよ!!

うるさいわね!!

わな.....

組織から
逃げ出した罰だ

おまけにイイ女も居るし、
一緒に楽しませて
貰うとするかのお

ケラ ケラ



お楽しみは
これからですよ

ん？





私も泥棒稼業が
上手いかなくてね

そうですか……

でしたら、
弱みにつけこむように
申し訳ないのですが、

この屋敷でこのまま
暮らしませんか？

手錠とかも無しで
ある程度自由は
効かせますので……

迷惑でなければ
いかがでしょうか？

悪い話じゃないので、
私たちは二つ返事で
承諾した

新しい暮らしが始まってからも
定期的に例の
撮影会が行われたが

少しずつ撮影が
楽しくなり、
次第に積極的に臨める
ようになった

ガシヤ

パシヤ

屋敷の主は分け隔てなく
私たち二人に接してくれた

ワインです

そんなある日

私、今度さ
主人と結婚しようと思
ってるんだ

えっ!?

あんた、どれだけ
コソ泥なのよ!!

私に黙って
勝手な事しないで!!

あんたこそ
適当な事
言わないで!!

あの人の事を
一番理解してるのは
私なんだから!!

だったらもう一度
この決闘場で、
どっちが妻に相応しいか
決めましょう!!

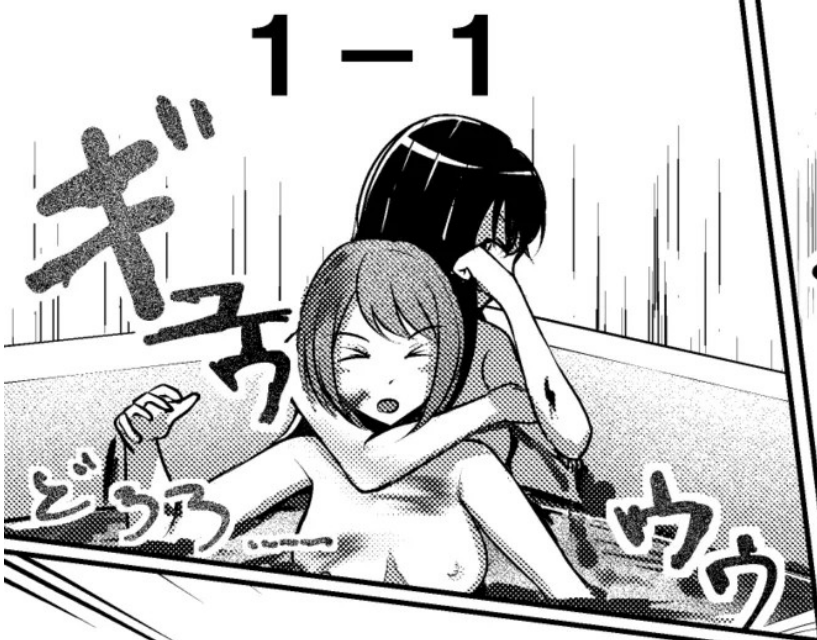
そうね
三本勝負で
行きましょう!!

フサッ

バサ

1-1

1-0



1-1

DRAW (泥だけに)



二人とも!!

どうして
こんな事に……

ガチャ

どっちが妻に
ふさわしいか

勝負しただけよ

私にとっては
二人とも大切ですから

争わないでください

だけど、これから
どうするつもり?

三人で暮らすって
無理があるんじゃない?

でしたら……

二人とも
私の妻に
なってください

こうして結ばれた三人は
時々泥レスリングをしたり

ど

オイルレスリングをしたり

ぬ

る

ん

三人で濃厚なローションプレイを
したりしながら、

と

と

ちゅるる

と

と

たくさんの子どもに囲まれ
幸せに暮らしました

~END~